

碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
神奈川 碩 心 会 発行

10年10月現在 地区 地区 地区 計	会員数 133名 199名 33名 365名	10年10月 (315号)	発行者 千葉 岳 関 編集者 白井 岳 麗
---------------------------------	------------------------------------	---------------	--------------------------

行事予定

○指導者講習会について

教務部から会場変更のお知らせ

日時・10月27日(火)

会場・逗子市図書館3階隣(講座室)

日時・11月17日(火)

会場・10月に同じ 講座室

○第31回全国吟剣詩舞道大会

日時・11月8日(火) 9時～16時30分

場所・日本武道館(東京都千代田区)

右大会に、碩心会より根岸啓岳さんが合吟で出吟します。

○逗子地区温習会

日時・12月6日(日) 9時30分～16時

場所・逗子市図書館ホール三階

奥伝合格 (10・10・1日付)

おめでとございます。ますますのご精進を。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 311 藤原光風 | 326 堤 誠風 | 330 市川静風 |
| 332 富永延風 | 333 八神嘉風 | 334 和田亮風 |
| 335 渡辺香風 | 336 中村紫風 | |

冠称「宗佑」を受贈して

竹石 岳 泓

去る9月6日、横須賀第二地区吟道大会に於て、はからずも冠称「宗佑」を受贈したことは感謝感激の至りであります。

感想はと問われても、直ぐこうだとは言うことが出来ませんが、私が入会した昭和30年代は、奥伝の人など珍らしく、雲上人に見えました。それが今の私は山の上の雲の上の人になったような心地です。

でも時代と共に総伝、総佑、宗匠、宗帥と進まれる人も多くなりましたので、甘んずることなく益々吟道に精進し、岳風会発展のために貢献したい所存です。

拙歌二首で感想を表現しておわります。

冠称を受けて壇より一礼す

拍手多くて感激したり

冠称をうけて問われる感想は

重く軽く雲の上なり

真澄支部二十周年記念吟の集い

真澄支部 星野輝 岳

去る9月13日、長柄会館に於いて「真澄支部二十周年記念吟の集い」を開きました。

舞台には、村田先生から御出席の皆様へ御礼に差し上げるため、沢山の花束が美しく飾られました。初めに「碩心会の詩」の合吟で身も心も引き締まります。第一部会員吟詠。

一同緊張のためか何時もの力が出ない様です。第二部協賛吟詠、逗子地区の各教場の方々の力のこもった合吟が続きました。次いで支部長挨拶、会長の御挨拶をいただき、村田先生の御礼の言葉、花束贈呈、写真撮影と進みます。午後から第三部詩舞、会員も一生懸命舞い、伴吟をしました。御招待の先生方の舞により一段と花を添えていただきました。第四部招待者吟詠、先生方が長年培われたこれぞ詩吟という味わい深い熱吟を、支部一同感銘深く拝聴致しました。懇親会は、楽しいお話し合いが続ぎ、舞台では、民謡あり、演歌ありで和やかなうちに、最後に御出席の皆様へ御礼の心をこめて真澄支部の「島の娘」の踊りで閉会とさせていただきます。当日は残暑

酷しく冷房が無いため、お暑い中を最後迄御臨席いただきました、誠に有難うございました。不行き届きの点多々あったかと存じますがどうかお許し下さい。真澄支部一同これからも心を併せて仲良く楽しく詩吟を学んで行きたいと存じます。どうか今後共先生方始め皆様よろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございます。

第6回神奈川地区吟道大会にて

逗子B 磯村朋岳

季節が戻った様な蒸し暑い9月20日、第6回神奈川地区吟道大会が、横須賀文化会館に於いて開催されました。

県内広域から集まった方々で座席は埋まり開演時間は遅れましたが、あとはプログラム通り速やかに進みました。雰囲気盛り上がった頃、碩心会女性合吟です。中村岳愛先生を中心に、本番で息も合い大変快よい吟詠でした。

千葉岳関先生の独吟、碩心会男性合吟も立派な吟を披露。

小、中学生の大合吟が、微笑と大喝采で前

半を締め括りました。

式典後は、出場者も聞く側も緊張する「コンクール」。碩心から合吟コンクールに一組出場し、練習の成果を発表した。

構成吟は、スライド併用のため和歌の根岸啓岳さんの姿が、暗くて見えなかったのが残念。

最後は、コンクールの結果発表、万歳三唱、来年の予定が告げられて無事終了。参加出来て、幸せに思いながら帰途に着きました。

全国吟道大会北海道の旅 一日目

一色支部 小菅幸岳

京急新逗子駅6時13分発の電車に乗り、8時55分発札幌行き全日空57便で千歳空港に向かった。

羽田空港で、参加者全員が集合の後、鹿島岳久本部長よりご挨拶があった。

予定より20分遅れて一路千歳空港へ。北海道は天気もよく、5台の観光バスに分乗、札幌市内で昼食。その後市内を車窓より見ながら小樽に向かった。市内を眺めながらも「北海道に来た」という実感はすぐにはもてな

った。ガイドの説明と、一部紅葉した景色に目をやりながら、傾斜した屋根、レンガ造りの旧北海道庁、時計台、大通り公園を車窓より見て、徐々に北海道の自然の中に引き込まれていった。小樽は、明治、大正時代、道内の経済、商業の中心であり今でも小樽運河周辺は一部歴史の後をとどめている。早朝の出発と小樽での北一ガラスの見学や買物で疲れ一日目の宿、定山溪温泉に向う。ガイドの説明を子守歌に眠る人も多く、宿に着いたのは日没後であった。まずは温泉、明日の大会の合吟練習。大会後の宴会を楽しみに、ほどほどに喉を潤し一日の疲れを癒やすべく床に就いた。

心に残った感動の大会

二日目

中村 岳 愛

朝起きて部屋の窓をあけると、定山溪の空にくつきりと虹の橋がかかっている、思わずみんなで声をあげました。今日は大会の日：8時ホテル出発ということで、急ぎ身仕度、朝食をすませ、出迎いのバスに乗りこみ一路会場の札幌厚生年金会館へ。9時大会の幕があき、北海道本部長井桁岳千先生の歓迎の辞

にはじまり、入賞杯返還の時点では、わが神奈川からも昨年入賞チームの代表から、連吟入賞杯が返還されました。

つづいて一般合吟に入りましたが、さすが全国大会：まずトップは北海道本部の、二百名からなる大合吟「丹頂の舞」が朗詠され、そのあと次々と大合吟がつづきました。今回は「大雪山」「北海道巡遊中作」等々、北海道を詠んだ詩が数多く吟じられたのが印象に残りました。神奈川県は約二百名が参加し、女性合吟二題、男性合吟一題を朗詠しました。一般合吟の次は合吟コンクールに入り、全国から24組が参加、神奈川県からも一チーム参加、熱吟がつづき、手に汗をにぎる緊張のひとときでした。

そして昼食休憩に入り、アトラクション・YOSAKOI（よさこい）ソーランが披露されましたが、男女若者達による、現代調にアレンジした民謡にあわせて踊る群舞はまさに圧巻：涙が出るほど感動しました。聞くところによると、このグループは全国の民踊大会でコンクール一位となり、NHKでも何度が放映され、全国各地をまわって上演中とのこと。最高に盛り上り、忘れられない思い出

となりました。

次に前回入賞した優秀吟者吟詠があり、神奈川県も一題出吟。つづいての会旗入場により会場はまさに盛り上り式典に入る。主催者長谷川理事長挨拶のあと、元内閣総理大臣海部俊樹先生、北海道知事、札幌市長来賓御三方の祝辞をいただきました。そのあと功労者表彰があり、式典終了。

つづいて全国から参加の連吟コンクールに入り、神奈川県からも一題参加、熱吟がつづきました。

そしていよいよ大会のメイン、構成吟「北の大地・北海道を讃う」が、吟、舞によりくりひろげられ「松前城下の作」にはじまり、目と耳を楽しませてくれ、最後は「北海道讃歌」で幕がおりました。

いよいよ終盤となり役員先生の吟詠は、さすがの声しきりでした。そのあとコンクール講評、表彰があり、大会実行委員長坂本岳雄先生の万歳三唱で、第109回大会は盛会裡のうちに終わりました。

その夜のホテルでの懇親会は、大会を終えた安堵感もあり、楽しく、和気藹々の中に行なわれ、又明日を楽しみに三々五々各部屋に戻りました。

パノラマ雪の旭岳と優佳良織 ユイカラオリ 三日目

矢嶋 岳 悦

前日の素晴らしい興奮が覚めやらぬまま、定刻8時、定山溪ビューホテルを後にバスの人となる。ガイドの説明によると昨日の大雨を思えば多分お山は雪だったでしょうとのこと。何となく道の端が白く見え、窓から顔を出すと大きな虹に歓声が挙がる。真直ぐに伸びる道路を走っていると、北海道の雄大さ、美しさに改めて感動する。

国道12号線で旭川に向い優佳良織工芸館に到着、白壁は雪の北海道を象徴しており、赤い煉瓦も北海の土、内部の木材もすべて天然木と、さわやかに澄む風土にふさわしい建物であった。四季をテーマにした優佳良織の掛物は、中でも白一色の雪景色と、群青色の海に漂よう流水を見事に織りあげており、そこに北国のきびしさと静けさを感じ、心と技の美を見た思いがした。

優佳良織に心を残し、次の雪の美術館に入る。お伽の国を思わせる館内は音楽堂、雪の館と眩ゆいばかりの美しさである。結晶の輝やきはまるで夢の世界のようであり、此処は結婚式の会場にもなるという。

昼食もそこそこに層雲峡へと車は進む。窓外の景色も一変し、遠く雪を頂く壮大なパノラマ旭岳が目に見え、白いしぶきをたてながら岩肌を縫って流れる川、赤い実をつけたナナカマド。そして両側は奇岩が立ち並び、ガイドの説明に銀河、流星の滝を見る。天を突く巨岩に右を見、左を見ているうちに奇岩の名前は忘れてしまう。

北国ならではの風景の中で、号車別に記念写真を撮る。

鹿が数頭草を食む丘、真つ青な葉をつけた甜菜畑や、掘りおこした玉葱畑が延々と続く。世界最大の時計塔果夢林に着く。時間になると平和を象徴する鐘が鳴るといので、皆上を向いて、今か今かと待っている。5時の鐘が鳴り、メロディが流れる演奏が終ると中央の窓から森の精が出てくる。左右から子供の精が現れ、大拍手が起る。翼2枚の鳩（ポツポちゃん）が顔を出し、メルヘンの世界さながら、皆子供にかえり楽しい一時を過ごした。車中では今晚の余興の出しものを練習する。

ホテルは旅の最後の宿にふさわしく広くて素晴らしいところであった。大宴会場には熱気がむんむんしていた。

本部長の挨拶があり、乾杯、余興と続く。碩心会も庄巻で会長、杉山先生のお仲人で松井、中村両家のお嫁入り、長い行列となる座布団をまるめて長持を担ぐ男衆の姿はユーモアがあり、長持唄、お立酒、さんさしぐれと、民謡もなかなかの出来栄で、まずはめでたしめでたしとなる。

今晚は十五夜。満月を北の国で見ながらしみじみと幸せを感じつつ野天風呂で湯につかった。

各先生方お骨折りをかけました。

追記：書き終りペンを置いてテレビを見ると、北海道という言葉に耳を傾けた。シベリヤへ抑留された元日本兵の画像であった。ソ連は賠償に北海道を要求、却下されると代償に行き先も告げずにシベリヤへ連行。労役に酷使した。（窓のつらら4本に我が子の名を付け、長く大きくなるつららに声をかけていた）程の寒さと（蛙や蛇を食べねずみ取りを作り食べつくして、ねずみがいなくなつた）程の飢えに苦しみ次々に亡くなった。戦友の遺書を預かり50年余も戦後が続いているという話をとりあげていた。胸が詰まった。素晴らしい北海道。多くの人の犠牲の上に今がある。

短歌

全国大会 (北海道を旅して)

風早 長 島 玉 岳

二日目

北の大地に吟道大会盛大に

終りて拍手命叫びて

四日目 杉 山 岳 雪

北見すぎ美幌すぎ行く車窓より

野良のら広くして人影見えす

真直ぐにつづきし道路のはるかにて

北の大地にサルピヤ赤く 岳雪

山裾を観光バスが過ぎゆけば

子連れの鹿が草喰むを見る 玉岳

開拓に命落しし囚人を

ガイド語りて胸せまりくる 玉岳

四日旅の終りに

流水の館に入れば濡れタオル

凍れる早さわずか数秒 岳雪

憧れの北の大地に今立ちて

オホーツク海の怒濤を聞きいる 玉岳

北の旅終りて網走女満別

エヤアシSTEM186便 岳雪

灯ともりし羽田空港無事に着き

旅の終りの別れを告げぬ 玉岳

第23回吟道大会に出吟して

唐木山 岸 川 芳 江

初秋の気配のただよう9月6日、衣笠のはまゆう会館に於て開催の横須賀地区大会に始めて出席しました。

6月より詩吟を習い始めて2カ月余り。過ぎてゆく月日の、あまりの早さにびっくりしております。

大会の壇上で佐藤岳統先生のお言葉にもありましたように、人格の向上を目指しながら頑張つて二千年を迎えたいものと思ひました。

高齢者表彰を受けられた皆様方もお元気で生き甲斐を持つことの重要性を改めて認識いたしました。その後連吟、詩舞にうっとり聞き惚れて会場は、シーンと水を打ったような静けさでした。素晴らしいお声が今でも耳の奥に残り、華やかな詩舞のまぶしい舞台が目

に焼きついております。

当日合吟の題は「自訟」でむずかしいことに驚き心臓がドキドキしておりました。いよいよ私達の番になり、皆様のお陰をもちまして、どうか無事に吟じ終ることが出来ましてホッといたしました。

大会に出席して感じましたことは、年令に関係なく学ぶことの必要性を、先生方のお姿から汲みとらせて戴き、堅く心に誓い感銘を受けた一日でした。ありがとうございました。

昇段審査を受けて

堀内E 長谷川 瑛 泉

半年振りに逗子図書館ホールの急な階段を上つて行きます。三々五々多くの方達も見えておりました。

私もこの日を迎えることは五度目になりましたので、会場に入りましてもまず先生方の笑顔が又席に居並ぶ方々も大分お顔見知りが多くなりました。受付をすませ先生方からの注意事項を聞いた後、各審査室に入つてからその頃からそろそろ緊張感も高まり、私は二十五番目でしたが、前の方々の上達の成果がうかがわれて、リラックスしてやればいいと思ひながらもすつかり平常心を失い、只々精一杯吟じること頭が一杯でしたが、とにかく終りホッといたしました。試験はどうも苦手ですがでも一つの関門を通り抜ける為に時折り緊張することは、いつまでも若々しく生きられる条件かも知れません。

こうして又これからも家庭的な暖かい雰囲気の中で、吟道に精進を重ねて行けるのも先生又吟友の方達皆様のお陰と感謝申し上げます。

今日から又次の一步が始まります。

平常心で審査が受けられるようになるには日頃の稽古が大切だということをしみじみ感じた一日でした。

啄木と牧水の

「友情の歌碑」

石川啄木の故郷に、若山牧水との交流を記念した「友情の歌碑」が岩手県盛岡市馬場町一番地にある啄木の母校市立下橋中学正門前に平成九年五月に建設された。歌碑は高さ一、八五幅二、六五の黒御影石製で、正面の左側には啄木の

教室の 窓より遁げて ただ一人

かの城跡に 寝にゆきしかな

右側には牧水の

城あとの 古石垣に ゐもたれて

きくともなき瀬の 遠音かな

と刻まれ中央に二人の友情を紹介する説明文がそえられている。牧水は、北原白秋らの紹

介で啄木と親交をむすび、臨終にも立ちあつた。この啄木の歌は、中学生時代啄木がしばしば教室の窓から抜け出して、盛岡城址でねころんでいたことを詠んだものだろう。

城址には

「不^{こゝろ}来^{かた}方の お城の草に寝ころびて

空に吸われし十五の心」

の歌碑もある。

この歌碑は二人の友情を知る地元有志が、啄木の本名「一（はじめ）」が三ッ並ぶ生誕百十一年の「川寿」を記念して建てたものと云う。啄木の歌碑としては百三十五基目、牧水の歌碑としては二百十基目であるが、二人一緒の歌碑は初めてと云う。その外盛岡駅前の歌碑、北上川畔の歌碑、新婚生活をおくった家跡など関連史跡が点在している。



入会

500 生田浦子 横浜市神奈川区三ツ沢下町1-10

(幸和) ☎〇四五―三二二―四〇三二

住所変更

260 加藤玲風 横浜市磯子区杉田3-11-6-304

357 加藤力山 ☎〇四五―八三三―二二二七

(栄)

退会

115 吉原慎風 (上山口) 261 沼田栄山 (上山口)

365 沼田厚山 (上山口) 382 海藤喜山 (唐木山)

編集後記

今月は全国吟道大会に参加された皆様にお願いで、大会当日をメインとして出発から四日目まで、北の旅路を特集させていただきました。お疲れのところ早速寄稿下さいました。ありがとうございます。

全員無事に楽しい旅をされたとのこと……

今月は原稿の都合上、2頁増しとなりました。

夏の疲れはこれから出るそうです。風邪が流行っているようですが、12月にかけて残っている行事を元気で乗り切りましょう。

広報部